



# アイヌタイムズ

## 第 51 号

2010 年 8 月 17 日 (火) アイヌ語ペンクラブ

アイヌタイムズ第 51 号(2010 年 8 月 17 日発行)からアイヌ語抜粋  
著者: 横山裕之

### 第 72 回北海道エスペラント大会

(アイヌ イタク [アイヌ語])

2008 パ 9 チュプ 13 ト タ、サッポロ (札幌) タ "第 72 回北海道エスペラント大会" アン ルウェ ネ。

2008 パ タ、"国際言語年"、"アイヌ先住民決議" アン クス アイヌ語ペンクラブ会長 サブネクル 野本久栄 ニシパ チタク ルウェネ。野本 ニシパ アイヌプリ オルシペ ウネ パシクマ ワ ウンコレ ルウェネ。

イヨッタ ホシキノ、北海道エスペラント連盟 サパネクル 星田 ニシパ エネ ハウエアンヒ:

テエタ、ヤイタク アエヤム ワ、オヤ モシリ ウン クルトウラノ ウコイタカン パクニ、アニネン ネ ヤッカ イサイクノ イエ エアシカイ イタク アカラ ロ、セコロ ヤイヌ ウタラ オカワ、国際語運動 セコロ アイエ プ キ パル ウェネ。

オロ タ 130 パ ウトウル タ エイワンケ イタク エスペラント パテク ネ ルウェネ。

ネ イタク ウサ モシリ ウン ウタラ ピリカノ チピラサレ クニ アリキキアシ ルウェネ。

エスペラント イタク エイワンケ ウタラ マカナク イキ ヤ カ、チヌイエ 文章 アン ルウェネ。ネワアンペ プラハ宣言 セコロ アイエ プ ネ ルウェネ。

### 第 72 回北海道エスペラント大会

(日本語)

2008 年 9 月 13 日(土)に札幌で第 72 回北海道エスペラント大会が開かれました。

2008 年に、「国際言語年」、「アイヌ先住民決議」があったので、アイヌ語ペンクラブ会長・野本久栄さんに、アイヌ文化について講演をしてもらいました。

まず最初に、北海道エスペラント連盟の星田委員長が次のように言いました。

昔、自分のことばを大事にして、外国人と話すために誰にでもわかりやすいことばを作ろうとした国際語運動というものがありました。

その中で 130 年使われていることばは、エスペラントしかありません。

私たちはそれを広めようとしています。

エスペラントを使う人が、どういうことをしているかということを書かれている文章があります。それはプラハ宣言と言われるものです。

(参考:プラハ宣言アイヌ語訳:

[http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/AinaManifestoDePrago\\_eo.htm](http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/AinaManifestoDePrago_eo.htm))

オロ ウン 第 5 章 オロ タ エネ アヌイェ ヒ;  
"イナン クル アエヤム クニ プ ネ ヒ ネノ イ  
ナン イタク カ アエヤム クニ プ ネ." セコロ  
アヌイェ ワ アン。

ネワアンペ "言語上の権利" セコロ アイ  
プ ネ ルウエ ネ。

オロ ウン 第 6 章 オロ タ エネ アヌイェ ヒ;  
"ウタラ コロ イタク ポロンノ アン ワ ウサ  
オカ イタク アナク シネプ ピシノ イコロ コラ  
チ アン ペ ネ ワ、オピッタ アエヤム クニ  
プ ネ、セコロ ヤイヌアシ." セコロ アヌイェ  
ワ アン。

ネワアンペ "言語の多様性" セコロ アイ  
プ ネ ルウエ ネ。

明治時代 オロ ワ アイヌイタク ネヤ アイ  
プリ ネヤ アハイタ ワ アン ルウエ ネ。

"言語上の権利"、"言語の多様性" アエプ  
ンキネ クニ、アイヌイタク カ アイヌプリ カ ナ  
ア アエヤム クニ プ ネ ルウエ ネ。

エスペ란チスト ポロセレ アナクネ エネ ヤ  
イヌ ワ アン ワ、タンパ タ "国際言語年"、  
"アイヌ先住民決議" アン クス、野本 ニシパ  
チタク ワ イタク チヌ クス ネ ワ。

オラ、野本 ニシパ エネ ハウエアン ヒ;

(参考:プラハ宣言アイヌ語訳:

その中の第 5 章には、どんな人も大切にされるべきであるというのと同じように、色々なことばも大切にされるべきであると書かれています。(元文:第 5 章には、人権という点では平等であるというのと同じように、ことばについても平等であると書かれています。)

これは「言語上の権利」と言われるものです。

その中の第 6 章には、人間の持っていることばはたくさんあり、色々なことばは一つずつ宝のようなもので、全て大切にすべきものであると私たちは考えます、と書かれています。(元文:第 6 章には、言語の多様性があると書かれています。人間の持っている表現の多様性は、人類にとっては宝であると考えています。)

これは「言語の多様性」と言われるものです。

明治時代から、差別を受けたアイヌ語、アイヌ文化があります。

これは、先ほどの「言語上の権利」、「言語の多様性」を守る上でも、平等にしなければなりません。

そういうことは、エスペ란チストの多くが考えており、「国際言語年」、「アイヌ先住民決議」があったので、野本さんにお話ししてもらうことになりました。

そして、野本会長は次のように言いました;



"1951 パ タ シラウオイ (白老) タ カン ワ、  
クパハ 35 パ アン ヒ ワノ "民族問題" ク  
ヤイヌ コロ カン。

"アイヌ クネ ルウエ ネ." セコロ イェ クル  
タネ ネ ヤッカ モヨ ルウエ ネ。コロカ、ネン  
カ イキ クニ プ ネ セコロ クヤイヌ ワ アイ  
ヌプリ、カムイノミ クイエパカシヌ ワ、アイヌ  
タイムズ クカラ ルウエ ネ。

1951 年に白老で生まれ、35 歳から民族問題に  
関わるようになりました。

「私はアイヌだ。」と名乗る人は、今でも少ない  
が、誰かがやらねばならぬと思い、アイヌの  
文化・伝統・儀式を教え、アイヌタイムズを作っ  
ています。

オカケ タ、カムイノミ オルシペ、カムイチェプ  
アコイキ ヒ タ アエイワンケ プ オルシペ  
(マレク オルシペ)、ムックリ オルシペ、アイヌ  
イタク アニ アイェ シンレ オルシペ、ポロンノ  
アイヌプリ オルシペ イェ ルウエ ネ。  
オロ タ ウウエカラパ ウタラ アミプ ミレ ワ、  
オヤコヤキ マカナク アン ペ ネ ヤ カ ミレ  
ルウエ ネ。

その後、カムイノミの話をはじめ、鮭を獲るとき  
に使う使う道具の話(マレクの話)、ムックリの  
話やアイヌ語の地名の話など、幅広くアイヌ文  
化について話していただきました。

また、参加者にアイヌの衣装を着せて、各箇所  
の説明をしてくれました。



ネ ウタラ ソンノ エヤイコブンテク パ シリ 好評でした。  
ネ。



イヨッタ イヨシノ "カント オロ ワ ヤク サクノ  
アランケ プ シネプ カ イサム。" セコロ アン  
イタク イペヘ ウネパカシヌ ワ ウンコレ ル  
ウエ ネ。

最後に「天から役目なしに降ろされたものは一  
つも無い。」の意味を教えてくださいました。

オロ タ ウウエカラパ ウタラ シノ エラマシパ  
ノイネ オカ ルウエ ネ。

参加者の多くが感銘したようです。

ネ 講演 オルシペ、インターネット カ タ クヌ  
イエ ルウエ ネ。

この講演の話は、インターネットにも書かれて  
います。

<http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/kongre-j/72kon-j08.htm>

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけてい  
ただけると大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)

購読料:1500 円 (4号ごと/アイヌ語版のみ)

2300 円(4号ごと/アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:

(連絡先): 〒047-0033

浜田隆史(宛)

北海道小樽市富岡 1-32-136

電子メール:[otarunay@yahoo.co.jp](mailto:otarunay@yahoo.co.jp)

ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、主に日本語由来のアイヌ語外来語です。